

読書の家から



新刊案内

あぶた読書の家

一般 地層調査(佐々木謙)
 かなたの子(角田光代) 無双
 の花(葉室麟) 鼠夜に賭ける
 (赤川次郎) 鼠影を絶つ(赤川
 次郎) しっぽちゃん(群よう子)
 ワン・モア(桜木紫乃) ポー
 カー・フェイス(沢木耕太郎)
 精姫様一条杉本章子) 不可能
 (松浦寿輝) 用心棒血戦 鳥羽
 亮) 毒婦(北原みのり) 苦役
 列東(西村賢太)
 児童書 ようかいむかし話

かつば(藤田晋一/大井知美)
 ようかいむかし話 おに(藤田
 晋一/大井知美) ようかいむ
 かし話 てんぐ(藤田晋一/大
 井知美) ようかいむかし話
 のつぺらぼう(藤田晋一/大井
 知美) ようかいむかし話 や
 まんば・雪女(藤田晋一/大井知
 美) ようかいむかし話 ばけ
 ねこ(藤田晋一/大井知美) ス
 ツコケ三人組 a g e 42) 那須正
 幹) スツコケ三人組 a g e 43
 (那須正幹) スツコケ三人組 a
 g e 44(那須正幹) スツコケ三
 人組 a g e 45(那須正幹)

みずつみ読書の家

一般 ブラックチェンバー

(伊坂幸太郎) 母の遺産(水村
 美苗) 外事警察(麻生幾) 日
 御子(篤木蓮生) 置かれた場所
 で咲きなさい(渡辺和子) 身を
 捨ててこそ(白川道) 反・幸福
 論(佐伯啓思) 101歳人生あ
 るがまま(渡邊恵進) 縄文人は
 どこからきたのか(北の縄文文
 化を発信する会) ミツカン社
 員のお酢(レシビ) ミツカン(株)
 ローターリ文庫 日本の地誌
 (山下克彦他) 日本の地質増補
 版日本の地質増補版編集委員会)
 地震学 第3版(宇津徳治)
 北海道の地震(島村英紀) 世界
 の湖沼と地球環境(熊谷道夫)
 巨大地震(巨大津波(平田直) 地
 形変化の化学(松倉公憲) 水辺
 環境の保全(江崎保男) 自然ハン
 ドブック(沼田真) 世界で一番
 美しい種子(図鑑) ロブ・ケスラー)
 開館時間
 午前10時より午後4時20分
 8月休館日
 8月16日・23日・30日・9月6
 日

今月の1冊



「いのちのしずく
 『コタンの赤ひげ』
 高橋房次物語」

川嶋康男(著)

北海道のお話です。アイヌの町白老
 町で地域医療に生涯を捧げた高橋医師。

貧しい人からは治療代は取らず、深
 夜でも、吹雪でも、求められれば往診す
 るそんな頑固一
 徹の生涯と家族
 愛を、没後50年
 を記念して出版
 されました。



(毎週木曜日・祝祭日休館)

あぶた読書の家 ☎ 76・2100

みずつみ読書の家 ☎ 75・4702

わたしのうた

短歌

【あぶた短歌会】七月定例会より

祭

アドレス帖練れば還らぬ人多し
 書いて届かぬ宛名消しゆく
 遠つ嶺の向かういまし沈みゆく
 夕日に逢いしを幸せとせん
 美しき球の透視にゆめむべきさ
 庭に咲きし紫陽花の花
 待ちをりし雨の恵みに菜園の
 莢豌豆の白き花咲く
 掌に肉刺まめをつくりて草を取り
 茄子に南瓜も日照りに耐へる
 のぼりふじ情けある毛わかりてか
 敷地の際に子をふやしおり

赤塚 瑛子
 山 木 孝
 大 西 芳子
 北 島 加代
 太 田 智
 元 田 フジ子

俳句

【あぶた俳句会】七月定例会より

入歯にもやさしく触れて水羊羹
 過去のことすべて流そう水羊羹
 打水のほど良き石に迎えらる
 祝宴の果ててひとり水羊羹
 燕くる今日をよしとす病窓に
 晩鐘やまだ老鷲の鳴き足らず

三 瓶 修
 小笠原 勇
 那 須 伶 子
 菅 原 敏 子
 井 村 育 子
 矢 野 知 子

7月号に掲載した俳句2句に誤りがありましたので、訂正してお
 詫言します。正しくは次のとおり。

仏典の多き古書店徴句ふ
 切り抜きほこり払えば徴句ふ

矢 野 知 子
 那 須 伶 子